2023年度　日本工学院専門学校

コンサート・イベント科　１年次

コンサートプロダクト２（制作）

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	吉野雄一郎			実務経験	有	職種	マネジメント全般				

担当教員紹介

録音スタジオでの音響業務をはじめ、音響会社でのイベント会場、展示会会場、ホテル内などの音響などに従事。

授業概要

どうやって集客するのか？何をすれば集客できるのか？などビジネスとして成立させるための視野を広げる。
協賛、配信、アーカイブなどチケットだけじゃなく色々な手段のマネタイズの方法を身に付ける。
イベントも多種多様になってきている現状を受け、常に新しい情報を取り入れ、臨機応変に対応できる調整力、企画力を獲得し、これからのコンサート、イベントを作っていく人材を育成する。そして、コンサート、イベント制作を通して就職へ繋がる人間力を向上、強化を目的とする。　イベントの企画立案、実施から配信、無観客など新しい様式に伴ったすべてを身に付ける

到達目標

100～2000人収容のコンサートやイベントの制作、運営、知識と経験を身に着ける。「人」「物」「お金」「時間」を管理する為に必要な「行動力」を念頭に置きながら、趣味嗜好では無く「プロ」としての意識を得る事が目標。これはエンターテインメント業界だけでなく、他業種でも必要な力になるので、目の前の就職だけでなく、自分の人生に対して必要な事を理解できるようにする。

授業方法

団体で行う事、個人で行う事の双方を取り入れ、知識として学べることと実践で学べることの意味を理解させ、授業に向かう体制を整える。学内で学べる事、外部（インターンシップ）で学べる事を理解することで、効率良く、かつ実のある知識、経験を詰みあげる。
知識を覚える方法として動画で配信する方法も「繰り返し見る事ができる」「自分のペースで学ぶ」など多くとメリットがあるので
対面と配信を両立しながら実施する

成績評価方法

試験・課題　40%　試験と課題を総合的に評価する
レポート　15%　授業内容の理解度を確認するために実施する
成果発表　15%　授業内容の理解度を確認するために実施する
平常点　30%　瀬極的な授業参加度、授業態度によって評価する

履修上の注意

今までの常識にとらわれず、新しい発想を生み出す力があるか？　感染症で変わった日常と共存する術を身に付ける。
コンサート、エンタメ業界だけでなくどの職種でも対応できる人材に育っているか？
外部（インターンシップ）ばかりにならないように、実習の必要性を１年次の内に理解させる。チーフや担当セクションが、同じ学生偏らないようにバランスを取り、すべての学生にチャンスときっかけを与える。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

イベントごとに必要な資料を準備する（アーティストの資料や会場の使用など）

回数	授業計画
第1回	予算管理（収支報告、経費、コンサートビジネスとしての意識づけ）
第2回	運営の応用（人員の配置など、安全を第一に考えつつコストを踏まえた上で高度な配置）
第3回	協賛の取り方（プレゼン、実施、報告書を通して外部との関係性の構築）
第4回	タイムテーブル通りに進行しているのか？何が予定と変わったのか考察し次に活かす）
第5回	プレイガイドの理解（チケットシステムを理解し、活用方法を知り実施する）

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 １年次	
コンサートプロダクト２（制作）	
第6回	観客の管理（イベントの特性により最適な席次の構築、安全にかつ効率よい運営）
第7回	進行台本（より具体的な進行台本の作成。テクニカルまで相対的に把握する）
第8回	映像の制作、編集（アタック映像、エンドロール等）
第9回	宣伝のため映像制作、編集
第10回	ファンクラブ、グッズ、販促グッズ等の企画、立案、発注、
第11回	演出効果（特効の種類の理解、技術、予算の把握）
第12回	装飾演出（お客様導線の装飾などイベント演出を考える）
第13回	パブリシティを理解（前パブ、後パブなど媒体を使った宣伝の方法を理解、実施）
第14回	卒業ライブ（すべてのセクション、すべての行程を学生主導で行う）総まとめ
第15回	報告書作成（予定より何がなぜ変わったのかを考察し報告書にまとめる

2023年度　日本工学院専門学校

コンサート・イベント科 １年次

コンサートプロダクト２ (PA)

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	小峰　建			実務経験	有	職種	ＰＡエンジニア				

担当教員紹介

舞台音響会社（全国コンサートツアーPAスタッフ）の社員として5年間、実務経験を持つ。同時に新入社員の教育業務も担当する。

授業概要

コンサートやイベント現場におけるPAスタッフを目指す。コンサートPAスタッフとしての基本的な知識の理解をはじめ、イベントPAを中心に仕込み作業の体験をし、ミキシングテクニックの基本を学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、初めて係る舞台業界で求められる技術、知識の基礎を理解できるようになる。また、どのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どの様な人間であれば良いかを理解できる様になる。

到達目標

この科目では、仮設音響機材の取り扱い、段取りを含めた適切なセッティング、一つ一つの音源を大切に収音する心とマイキング、出演者の気持ちを汲み取り、そのイメージを崩さずにお客様に届ける感性とスキルをバランスよく習得する。また、舞台スタッフとして自分の役割と立ち位置を理解し、自分の適性や興味・関心と結びつけて理解すること。今後社会に出て活動するために必要な能力を具体的にイメージし、ゆくゆく社会や組織で協働することの重要性を理解することなどができるようになることを目標にしている。

授業方法

コンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、基本的な機材の仕込み作業（ケーブル巻き、機材の設置、配線、音量操作など）を片柳アリーナ(記念ホール)・A-Stage・BOXステージ、PA実習室などで行う。また、仕込み図や回線表を元にセッティングを行い、その作業を反復練習することにより理解度とスピードを上げていく。それに必要な知識、技術をゼミ形式で併用して身につけ、グレード試験にて自己確認する。

成績評価方法

授業成果　60%　実習への取り組む姿勢、特にチームワークで臨む実習、それに向けた準備についての貢献度を評価
提出課題　20%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
グレード試験　20%　試験の合否、

履修上の注意

遅刻は厳禁。授業開始の１０前に実習室にて、服装・メモ等の準備をしる。「おはようございます」等挨拶が非常に大事です。自分から声を掛けられるようにしましょう。実習科目なので重量物・突起物のある機材の扱いを実施します。怪我をしない、させない様に服装などに注意が必要。機材破損の無いように十分注意をし、より良い学習環境を作るために最低限のルールを守ること。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

回によりレジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する

回数	授業計画
第1回	マルチウェイスピーカーの理解と設置法 スピーカ単体の性能を理解し、マルチウェイにて使用する場合の注意事項の理解
第2回	SPシステムの配線とチェック方法 SPシステムの配線方法の習得と回線チェック方法の理解
第3回	スピーカにおいての音質調整 グラフィック・パラメトリックイコライザー等　使用法と音質調整テクニックの理解
第4回	モニターコンソールの使用方法 モニターコンソールの使用方法とオペレート技術の理解
第5回	ＡＵＸ回路 ＡＵＸ回路からモニタースピーカーへの配線と音だし、コンソール使用法の理解

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 １年次	
コンサートプロダクト２ (PA)	
第6回	ハウスとモニター卓・オペレート ハウスシステムとモニターシステムのセッティングとオペレートにおける心がけの理解
第7回	ＰＡ機材の理解 リバーブ・ディレイ　等空間系エフェクター研究
第8回	コンサート実習準備 プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習の理解
第9回	１年次コンサート実習　本番 コンサートの本番を通じて、ミキシング技術とアーティストとのコミュニケーションを理解・体験する
第10回	コンサート実習の反省と検証 コンサート実習の反省と検証、次回への課題確認
第11回	デジタルコンソールの基礎知識 デジタルコンソールの基礎知識の理解
第12回	修了コンサート　準備 プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習
第13回	修了コンサート　本番 コンサートの本番を通じて、ミキシング技術とアーティストとのコミュニケーションを理解・体験する
第14回	修了コンサート実習の反省と検証 次回２年次へ向けて課題確認
第15回	グレード試験 イベントPAシステムによる音出し、調整等。

2023年度　日本工学院専門学校

コンサート・イベント科　１年次

コンサートプロダクト２（照明）

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	島立 麦人			実務経験	有	職種	照明エンジニア				

担当教員紹介

照明業界にて、ホール管理の実務経験を有している。バンケット照明、コンサート・イベントに関するライティングデザインや色彩理論、照明機材のメンテナンス等の知識技術を活用した業務経験を持つ。

授業概要

実習を通して照明スタッフとしての基盤を形成する。実習、座学、オンライン講義のバランスを考え授業展開し、学生の知識と技術の向上を図る。受動的な講義と能動的な講義を組み合わせることで、学生自身が主体的に物事を考え、行動や発言ができるようになることを目指す。

到達目標

①舞台照明の基礎知識を学び、照明スタッフとして専門用語を用いて他セクションと打ち合わせ等の会話ができるようになる。
②舞台照明の基礎技術を身につけ、基本的な仕込みやライティングデザイン、本番オペレートを行う。
③人間力を伸ばし、業界スタッフ(社会人)としての姿勢や心得を理解する。

授業方法

対面座学：照明の基礎知識、安全衛生法、PCスキルなどを学ぶ
実践授業：機材の設営撤去、搬入搬出、明かりの調整、本番オペレートなど講師の直接指導の下で学ぶ
オンライン講義：ライティングデザイン、図面作成、PCスキルを学ぶ。実践授業、座学の復習にも活用。

成績評価方法

提出課題　　30%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
グレード試験　30%　試験の合否
授業成果　　40%　授業への取り組む姿勢を評価

履修上の注意

安全第一で授業は行う。重量物や昇降物がある為、声を出すことが非常に大切になる。照明スタッフは高所に上がることあり。
理由のない遅刻や欠席は認めない。挨拶をしっかりと行うことが大切。
グレード試験や小テストを行い理解度を確認する。
携帯電話は使用禁止。教室内は機材がある為、飲食は禁止とする。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

教科書教材

舞台・テレビジョン照明：テキストを基に資料を作成。授業内で学生へ配布
ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用

回数	授業計画
第1回	安全衛生法の座学　通常作業、高所作業に取り組む際の注意点や法律等の講義にて内容を理解する。 照明機材の仕込み実習　各種機材の取り扱い方と仕込み方を習得する。
第2回	ピンスポットの取り扱い　ピンスポットの操作方法、設営の方法、機材内部の仕組みについて理解する。 電気・電源の基礎　電気計算や配電方式、伝送方法などについて理解する。
第3回	照明操作卓Avolitesの使い方① 一般照明のパッチ・作成・修正・削除方法を理解する。
第4回	照明操作卓Avolitesの使い方② LEDのパッチ・パレットの作成方法を習得する。
第5回	3Dシミュレーションソフト作成講座　シンボルを図面と同じ位置に落とし込み、人や壁などのオブジェクトを用いて図面を作成させる。 LED機材について/アドレス設定の講習　LED機材の仕込み方、アドレス設定、電源配線について理解する。

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 １年次	
コンサートプロダクト２（照明）	
第6回	譜割り・曲の分析についての座学　　小節の数え方、照明きっかけの解説。 ネットワークと信号についての座学　ネットワークセッティングの方法と信号理論を理解する。
第7回	光の性質についての座学　　減法混色と加法混色の解説、色と光の関係性、明度、輝度、照度について学ぶ。 ライティングデザイン実習　明かりのデザインの基礎をLEDライト・一般照明機材を使用し、習得する。
第8回	照明オペレート実習　　照明卓の設営からプログラミング、本番オペレートを実機とPCを用いて学ぶ。 仕込み図面の作成実習　ベクターワークスの使用方法を学び、基本的な照明図面を作成を習得する。
第9回	ムービングライト仕込み実習　ムービングライトの特性を理解し、仕込み方やバラシ方、アドレスの設定方法を理解する。 シュート・フォーカス実習　　明かりの調整方法や竿の使用方法を習得する。
第10回	照明操作卓GrandMA2の使い方① パッチやパレットの作り方をムービングライトやLEDライトを用いて実践的に習得する。 カラーとポジションのパレットの作成方法を知る。
第11回	照明操作卓GrandMA2の使い方② （Ｑリストの概念と作り方、エフェクト）
第12回	修了ライブ実習①　仕込み演習・データーのプログラム 時間内に仕込みを完了させる。曲を聞き込み、明かり合わせまでにデーターのプログラムを終わらせる
第13回	修了ライブ実習②　明かり合わせ、シュート演習 実際に明かりを見ながら修正作業をすることができる。ピンスポットの色味の調整を習得
第14回	修了ライブ実習③　他セクションとの打ち合わせ、調整、アーティストを入れてのリハーサル 本番を想定したオペレート演習の実施。Qデータの修正を的確に入力する技術を取得する。
第15回	修了ライブ実習④　本番実習 本番を通して照明のオペレート方法を学ぶ。実践形式の実習で対応力を養う。

2023年度　日本工学院専門学校

コンサート・イベント科　１年次

コンサートプロダクト２（舞台）（担当山下）

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	山下　顕治			実務経験	有	職種	コンサート　舞台監督　舞台美術　大道具　特殊効果　電飾				

担当教員紹介

コンサートの舞台監督、舞台美術を中心に、様々な演出から派生してくる特殊効果、電飾、映像、レーザーなどの、プランニング、施工、オペレートの経験を持つ。またそれらに必要なCAD、グラフィック、Office,3Dシミュレーション、映像編集などの様々なソフトウェアを使いこなす。

授業概要

コンサートやイベントなどの舞台監督及び大道具スタッフを目指す。舞台監督としては基本的な知識の理解を深め、全セクションのリレーションを良好に保つための方法論を学びその実践を行う。大道具スタッフとしては基本的な知識の理解及び必要な部材の理解や工具の使用法を習得する。またコンサートの美術においては、求められる美術セットによって複合的な要素を求められる。なかでも現場では様々な役割を持ったスタッフが円滑なコミュニケーションを図れるように、スタッフ間の相互理解を深めていくために、プランニング、仕込み、リハーサル、本番、撤収を反復していく。

到達目標

この科目ではコンサートやイベントなどに於ける舞台監督及び大道具スタッフとしての基本的な知識や技術を習得を目指し、実際の現場で活躍する企業のスタッフやプロのアーティストの協力の元実践的なコンサート制作を通してコンサートスタッフへの理解を深めることを目標としている。そのうえで、「現場で求められる人材」「実社会で活躍できる人材」とは何かを学生自らが考え、社会に出てから必要となるスキルを身に付けるために自ら動く大切さを理解できるようになることもまた目標としている。

授業方法

実際にセットやそれに必要な部材を使って作成します。またその作業を反復練習することにより、理解度と作業スピードと精度を上げていきます。またそれに必要な知識、技術をゼミも併用して身に付け、グレード試験にて自己確認します。仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの更新、変更事項に対する資料の修正、改善などを通して、必要な知識技術を習得していきます。また美術セットのデザインやライブの演出などのアイディアは、プロが実行したライブ作品を参考に可能な要素を取り込んでいきます。

成績評価方法

授業成果　　60%　実習への取り組む姿勢、特にチームワークで臨む実習、それに向けた準備についての貢献度を評価
提出課題　　20%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
グレード試験　20%　試験の合否、

履修上の注意

遅刻厳禁。実際の現場に於いて限られた時間の中でのタイムテーブル通りの進行は必須となります。今の内から意識付けをしてください。
重量物や長尺物などを扱いますので、安全面には十分気を付けた上で、相応しい服装での参加を求めます。
一度実施しても、それを記憶する、実行できる、ということにはならないので、必ずメモを取り、反復練習して確実に自分の実力とすること。
メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に理解出来、やがてそのメモが必要無くなるくらいに身に付ける必要があります。

教科書教材

必要に応じてレジュメ・資料を配布します。参考書・参考資料等は、google class roomなどで提示、共有していきます。
美術セットの仕込み作業に可能性を持たせるために、足場の組み立て講習、フルハーネス講習は必須で受講してもらうこととなります。
また図面作成に必要なCADスキル習得の為、VectorWorks学生単年度版の購入と、それに必要なノートPCの持参を求めます。

回数	授業計画
第1回	基本的な舞台設備④ バンド編成を元にしたバンドセッティング図の割り出し方法を理解する
第2回	基本的な舞台進行① タイムスケジュールを作成する為、どのようなセクションがあるかを理解する
第3回	基本的な舞台進行② 各セクション（PA,照明など）に時間配分をする為の、作業内容を理解する
第4回	基本的な舞台進行③ 準備段階も含めた制作スケジュールのシミュレーションを行う
第5回	基本的な舞台進行④ Set Listからアーティストの意図を汲み取り、ライブ進行を考える

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 １年次	
コンサートプロダクト２（舞台）（担当山下）	
第6回	VECTORWORKS基本操作③ 平面図、正面図、断面図を理解し、VECTORWORKS（図面作成ソフト）を用いて作成する
第7回	仕込練習① 用意された仕込図から必要な数値や部材を読み取り、部材リストの作成を行う
第8回	仕込練習② ステージ上に立ち位置、セット位置のバミリをし、仕込図通りのセットを完成させる
第9回	修了ライブ実習① 修了ライブのセットを考え図面の作成を行う。タイムテーブル、進行表などの資料作成を行う
第10回	修了ライブ実習② 部材の検討及び発注や購入等を行い、実際にセットを製作する
第11回	修了ライブ実習③ 仮組の意味や必要性を理解し、実践する
第12回	修了ライブ実習④ テクニカルリハーサルの意味・内容を理解し、実践する
第13回	修了ライブ実習⑤ 全セクションの調整を取りつつ、安全に配慮し本番を進行する
第14回	修了ライブ実習⑥ 本番を振り返り、成功体験の共有と反省点の改善策を見つけ、次回につなげる
第15回	グレード試験 図面から必要な情報を読み取り、仕込が出来るようになる

2023年度　日本工学院専門学校

コンサート・イベント科　１年次

コンサートプロダクト２（企画）

対象	１年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	田中　朋子			実務経験	有	職種	イベントプランナー・制作				

担当教員紹介

ブライダル業界にてブライダルコーディネーターの実務経験あり。
主に新規顧客セールス、プランニング、当日施行を行う。

授業概要

・社会人としての「品格（挨拶、身なり、鉛筆の持ち方、食事の作法、姿勢、傾聴）」を習得。
・常に相手の立場を考えた行動言動を図る想像力を身につける。
・産官学地域連携、分野横断プロジェクトなど、実践的なイベント企画制作を通して社会に出るためのスキルと人間力を培う。
・企業や地域社会（大田区）とのヒアリングを通し、本質的な課題を抽出し、KPI/KGIの適切な設定能力を養う。
・データに基づいた、マーケティングの方向性の設定。
・課題の解決につながるコンセプトの発案。
・「戦略」をより機能させるための最適なクリエーティブを通した「戦術」の提案能力を付ける。

到達目標

・大田区産官学連携プロジェクトに基づいた実践的なイベント制作を通して、企画力・マーケティング能力を身に付けることができる。
・SDGsを主軸とした学習活動を通して、社会問題に対しての興味関心と、「高い倫理観」を養う。
・課題発見・課題解決のために、仮説を立て、計画を練り、思考錯誤を繰り返す学習を通して、「戦略」をより機能させるための最適な「戦術」の発案能力を身につける。

授業方法

・授業の際に、口頭で長時間伝えるのではなく、伝えたい内容を、パワーポイントや板書などを用いて分かりやすく簡潔に伝える努力をする。
・学生自身が、「今、何を学んでいるのか？」を理解できるように指導する。
・時間に授業が終わるように管理を徹底する。
・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。
・習熟度の偏りが起きないように努める。
・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。
・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。

成績評価方法

課題提出　　30%　定期的な課題の提出率、提出内容で評価。
レポート提出　10%　定期的なレポートの提出率、提出内容で評価。
グレード試験　20%　試験の合否で評価。
実習成果　　40%　習熟度・授業への取り組む姿勢を評価。

履修上の注意

・授業の際に、口頭で長時間伝えるのではなく、伝えたい内容を、パワーポイントや板書などを用いて分かりやすく簡潔に伝える努力をする。
・学生自身が、「今、何を学んでいるのか？」を理解できるように指導する。
・時間に授業が終わるように管理を徹底する。
・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。
・習熟度の偏りが起きないように努める。
・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。
・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。

教科書教材

・イベント検定テキスト
・他、イベント毎に必要な資料を都度、準備する。
・書籍、名作、名画鑑賞。（時代と芸術の考察のため）

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション 社会で必要となる品格の習得、相手を思いやる想像力、SDGｓを主軸とした課題解決型の産官学連携イベントに関する説明。 企画出し・アイディアを引き出す脳トレーニングを序盤に取り入れる。
第2回	オータムイベント(かまた祭)に向けて 大田区内における社会問題やSDGｓに関する課題の提示・会場・ターゲット・集客方法などについてリサーチ。 グループに分かれ、レポートを作成し、PowerPointで発表する。
第3回	オータムイベント(かまた祭)に向けて SDGｓに関する企業セミナー・企業訪問・見学会などの実施. グループに分かれ、レポートを作成し、PowerPointで発表する。
第4回	オータムイベント(かまた祭)に向けて イベント企画立案・会場装飾・空間演出(マルガリータさん)・広報(渡邉さん)についての基本的知識を習得した上で、企画制作実施。 企画概要書・3枚企画書を作成し、PowerPointで発表する。
第5回	オータムイベント(かまた祭)に向けて イベント運営方法考案・制作・シミュレーション実施。 3枚運営マニュアルを作成し、PowerPointで発表する。

2023年度　日本工学院専門学校	
コンサート・イベント科 １年次	
コンサートプロダクト２（企画）	
第6回	オータムイベント(かまた祭)本番 東急プラザ蒲田にて、学生主体でイベント運営
第7回	振り返り・報告書作成・個人報告レポート作成 全体の総括を行い修了イベント実習に活用
第8回	個人報告レポート発表 協力企業へイベント報告
第9回	修了イベントに向けて 社会問題やSDGｓに関する課題の提示・会場・ターゲット・集客方法などについてリサーチ
第10回	修了イベントに向けて 大田区におけるSDGに関する課題への取組み・広告代理店による特別講義・SNSマーケティング講義・YouTubeブランド戦略講義
第11回	修了イベントに向けて ディレクション力を高めるための見学会・企業訪問などの実施
第12回	修了イベントに向けて イベント企画立案・会場装飾・空間演出(マルガリータさん)・次世代広報活動(渡邉さん)において企画制作実施
第13回	修了イベント(かまた祭)に向けて イベント運営方法考案・制作・シミュレーション
第14回	修了イベント本番 東急プラザ蒲田にて、学生主体でイベント運営を行う。
第15回	修了イベント振り返り・報告書作成・まとめ 全体の総括を行い2年次へのイベント実習に活かす。協力企業へイベント報告を行う。